

第2章

みんなをめざす2030年の 青森県

Contents

1 2030年のめざす姿の具体像	41
2 分野別のめざす姿	45
3 「生業(なりわい)」と「生活」の成長戦略	55

1 2030年のめざす姿の具体像

青森県がめざす「生活創造社会」の具体像については、「生活創造推進プラン」では「暮らしやすさではどこにも負けない地域づくりをめざすこと」とし、続く「青森県基本計画未来への挑戦」では『「生業(なりわい)」に裏打ちされた豊かな『生活』が実現している社会』という、常に創造・発展を志向する社会として位置付け、社会、経済、環境の変化に応じた捉え方をしてきました。

この計画においては、このような「生活創造社会」の理念を継承する中で、より一層グローバル化が進展している2030年において、『「生業(なりわい)」に裏打ちされた豊かな『生活』が実現している青森県の姿』とはどのような状態かを見据え、めざす姿の具体像を次のとおり掲げるものです。

青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が
世界に貢献し広く認められている状態

このめざす姿が想定する2030年の青森県の具体像について、分野別に例示すると次のようになります。

<p>産業・雇用分野</p> <p>青森県産品や青森県で生まれた技術、産業の営みなどが世界に貢献していること。</p>	<p>安全・安心、健康分野</p> <p>安全で安心な青森県の食が世界の人々の生活を豊かにするとともに、地域を挙げた健康づくりの活動によって短命県を克服し、健康で長生きな青森県となり、その取組が世界の人々の健康づくりの参考になっていること。</p>
<p>環境分野</p> <p>青森県の自然がもたらす恵みや自然と共生してきた営みが、世界の人々の学びの対象となっていること。</p>	<p>教育、人づくり分野</p> <p>青森県が産み育てた人財が国内外で活躍するとともに、地域に根ざした歴史や文化、スポーツが海外でも高く評価され、活発な交流が行われていること。</p>

以上のように、青森県の様々な分野の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が一体となって世界から評価され、県民自身もその価値を誇りに思い存分に享受している状態をめざすものです。

この状態は、国内外の人々の視点から捉えてみると、次のように言い換えることができます。これをめざす姿の具体像の簡潔な表現として併せて掲げるものです。

世界が認める「青森ブランド」の確立
～「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の青森県～

この「青森ブランド」とは、青森県産品のブランド化のみを指すのではなく、主に次の内容で構成されるもので、青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が一体となって生み出す価値の総体のことです。

- 青森県の自然・歴史・文化・観光・生活を始めとする地域資源や産品、技術、サービスなどが有する価値
- 青森県内の市町村や地域が有する価値
- 地域資源や産品、地域特性を包括した青森県からイメージされる価値
- 青森県が提案した政策や地域の取組、輩出した人財の価値 など

また、この「青森ブランド」を認知する国内外の人や県民の視点で分かりやすく表現すると、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の青森県ということが出来ます。具体的には、次の3種類の価値を備え、それが世界から認知されている状態をめざすものです。



スイスに学ぶ「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」

「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の3種類の価値を備えた地域とは、具体的にどのようなイメージか、分かりやすく示すため、世界経済フォーラムの報告書における国・地域の競争力の順位で5年連続1位を誇るスイス連邦を例に挙げてみます。

まず、「買ってよし」については、高級時計に象徴される精密機械が世界のブランドとなっているとともに、金融業が世界の顧客の信頼を集めているのは周知のところ。次に、「訪れてよし」については、崇高な景観を誇るアルプスに代表されるように、世界の人々の憧れの観光地となっています。また、「住んでよし」については、国民1人当たりのGDPが世界トップ水準を維持しています。さらに、世界の都市の暮らしやすさや「クオリティ・オブ・ライフ(生活の質・QOL)」に関するランキングのここ数年の状況を見ると、チューリッヒが1位を含め毎年上位に位置付けられていることを始め、ジュネーブやベルンもトップ10に入るなど、スイスの都市が高い評価を受け、質の高い生活が営まれています。

そこで、スイスにおいて、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」が実現している要因を探ってみると、「地産地消」、「地域経営」、「健康な人財」の3つのキーワードを挙げることができます。

1つ目の「地産地消」については、スイスはヨーロッパの中でも物価が高い国ですが、値段は高くても上質な自国のものを購入しようという意識が国民に浸透しています。また、スイスには世界から観光客が集まる中で、

観光客の4割以上をスイス国内の居住者が占めています。このように自国の産品や観光の価値をまず国民が認め、「地産地消」を自ら実践することが、結果的にそれらの対外的な価値を高めることにつながっているのです。

2つ目の「地域経営」については、スイスの市町村には、「ブルガーゲマインデ」という地域の雇用を創出する地域住民による共同体が存在します。この共同体の中には、ホテルやレストラン、鉄道などの資産を所有し経営を行うことで、雇用と利益を生み出す地域経営の中核となっているものもあります。

3つ目の「健康な人財」については、世界経済フォーラムの2013年「人的資本レポート」で、スイスは、4項目からなる人的資本指数の総合ランキング1位となっており、項目別では、健康と労働力・雇用が1位で、生涯にわたって健康で良質な労働力となる人財が国を支えています。

このように、もともとヨーロッパの中では条件不利国と言えるスイスにおいて、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」というスイスブランドが世界から認められているのは、国民の力によって高い生産性と競争力を生み出した結果なのです。

単純に青森県がスイスをめざすということではありませんが、国や地域の自主・自立をめざす志は同じということができます。特に、「世界が認める『青森ブランド』の確立」に向けて、県民の力で「青森ブランド」を支えるということを始め、スイスの取組から学ぶところは数多くあります。



「青森県基本計画未来への挑戦」で掲げためざす姿
「生業(なりわい)」に裏打ちされた豊かな「生活」が実現している社会

2030年において実現している状態を具体的に捉えると

この計画で掲げるめざす姿の具体像

青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す
価値が世界に貢献し広く認められている状態

世界が認める「青森ブランド」の確立
～「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の青森県～

【めざす理由】

- 訪日外国人観光客の増加や海外取引の拡大を始め日本経済のグローバル化が一層進む中で青森県が外貨を獲得し成長していくためには、まず、青森県の観光資源や産品などの「生業(なりわい)」が生み出す価値が国内のみならず世界から認められていることが必要です。
- その価値が世界の人々にしっかりと定着するためには、青森県の暮らしや文化、環境などの「生活」に根ざした地域の価値に対する共感を得ることも大切です。
- このような青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が一体となって世界の中で定着し、県民も豊かさを享受している状態を、世界が認める「青森ブランド」の確立として表現しているのです。

2 分野別のめざす姿

この計画においては、計画期間の5年間で取組を進める4つの分野を設定するとともに、それぞれの分野ごとに「めざす姿」、「めざす理由」を提示します。

設定する分野

県民一人ひとりの経済的基盤の確立（「生業（なりわい）」づくり）を実現するための

産業・雇用分野

心の豊かさや命・健康・環境など、暮らしやすさを守り、発展させていくという「生活」面の充実を実現するための

安全・安心、健康分野

環境分野

あらゆる分野で根幹をなす人財を育成するための

教育、人づくり分野



産業・雇用分野

仕事づくりと所得の向上



【2030年における青森県のめざす姿】

成長3分野での産業の創出・強化と外貨獲得

① 「世界のブランド」をめざす「あおもり'アグリ」

青森県の強みである農林水産業については、集落営農組織や農林漁業法人など地域の中核を担う経営体などが中心となり、農協・漁協などがそれを支援して、地域全体の発展という視点から担い手育成やコミュニティ機能の維持などを行う「地域経営」が推進されており、持続可能な農山漁村が確立されています。

そこで生産されたものは、販売事業者や物流関連企業との連携強化により、鮮度を保った輸送が行われるなど、生産から消費までを効率的・効果的につなぐ新たな流通ルート・手法が確立されており、戦略的に国内外に供給されています。

農林水産物を始めとする青森県産品は、安価な海外の製品に負けない品質を備えた「世界で通用するブランド」として評価・認識され、高い付加価値をもって取引されており、外貨の獲得*が進んでいます。

※外貨の獲得：この計画では、農林水産物やその加工品、工業製品や各種サービスなどを県外（国内外）に提供する対価として、又は県内で観光客など国内外からの来訪者に対してそれらを提供する対価として、県外（国内外）からお金を稼ぐことを指しています。

② 新たなビジネスが創出されている「あおもり'ライフ」

少子化・高齢化や人口減少に対応した子育て支援、高齢者の見守りなど、女性や高齢者などが暮らしやすい社会システムが確立され、医療、健康、福祉分野において、医療機器やいわゆる健康食品などの製造、新たなサービス関連のビジネスが創出されています。

また、これらの産業は、雇用拡大にも役立っています。

③ 産業と人財が集まる「あおもり'グリーン」

再生可能エネルギーについては、発電事業とメンテナンス分野などの関連事業を県内企業が担い、地域産業として成長しています。

リサイクル関連産業など環境関連産業も定着しています。

また、県内企業の原子力関連産業への参入拡大と県内における原子力関連の新たな産業の創出に向けて、原子力分野の人財育成・研究開発活動が行われています。

さらに、次世代核融合炉*の実現に向けた国際的な研究開発拠点が整備され、国内外から多くの研究者が訪れ、研究開発活動が着実に進んでいます。

※次世代核融合炉：核融合エネルギーの科学的・技術的可能性について、実験炉の建設・運転を通じて実証するITER計画の次の段階として、核融合エネルギーの発電を実証する原型炉です。

【めざす理由】

本県ではこれまで「攻めの農林水産業」に取り組んできており、大手量販店との取引額が増大するなど大きな成果が得られています。

この農林水産を核とした「アグリ」分野については、本県の強みである食を更に伸ばし、生産性・収益性を向上させていくことが重要です。

医療・健康・福祉の「ライフ」分野については、人口減少、少子化、高齢化の加速により、今後こうした社会変化に対応する産業の需要が大幅に増加することが見込まれます。

また、環境・エネルギーの「グリーン」分野についても、本県の強みであるエネルギーを生かし、関連産業を創出していくことが重要です。

これらのことから、この3分野を今後の成長分野と位置付け、急速に進展する経済のグローバル化の流れを捉え、急速に発展するアジアの成長力を取り込めるよう、競争力の強化や海外展開に重点的に取り組んでいく必要があります。

個性的な魅力を備えた「あおり「ツーリズム」」

十和田湖・奥入瀬・八甲田や世界自然遺産白神山地などの美しい自然、三内丸山遺跡や是川遺跡などの史跡、健康や癒し効果も期待できる豊富な温泉、せんべい汁やじゃっば汁など青森県固有の食、青森ねぶた祭や弘前さくらまつりなど全国的に著名な祭り、その他スポーツやアートなど青森県の持つ魅力的かつ個性的な文化が発信されており、世界水準のホスピタリティ^{*}や自然・景観・文化・料理・湯治などの経験・体感メニューを備えた個性的なサービスが提供されています。

また、地域の暮らしや生活文化などに対する関心の高まりから観光地域づくり^{**}が進んでいるとともに、地域資源を活用した各種テーマ観光が推進されています。

この結果、国内外から多くの観光客が「世界の中の青森」に憧れて青森県を訪れ、地域全体の活性化が図られています。それらにより、幅広い分野で形成される観光産業は、多くの域内循環^{**}を生み出し、外貨の獲得に貢献しているほか、雇用を創出しているとともに、収益性も向上しています。

※ホスピタリティ：思いやり、心からのおもてなし、という意味です。

※観光地域づくり：自らが地域に愛着と誇りを持ち、自らの暮らしを楽しむことで、観光客を楽しませる地域をつくり上げていくことです。

※域内循環：農業、製造業、観光関連産業などの「域外市場産業」によって地域外からお金を稼ぎ、それが地域内で消費されることによって、地域内を市場とする商業、サービス業などの「域内市場産業」が成立し、拡大していくという地域経済の機能における、「域内市場産業」でのお金の循環のことです。

【めざす理由】

これからの人口減少社会において、本県の活力を維持・拡大していくためには、裾野の広い観光産業の振興が効果的で、国内外から多くの観光客を誘致して交流人口を拡大することが重要です。こうした取組により県内での観光による消費額を増加させることなどにより外貨獲得に貢献します。

また、観光産業の維持拡大には、収益性の向上を進め、競争力の強化を図ることが重要です。

国内外で支持される「あおり「ビジネス」」

県内企業は、持てる技術や農林水産物、エネルギー、観光などの豊富な地域資源を生かして、新製品開発や新事業展開を活発に行い、国内外の市場で商品やサービスが支持されているとともに、収益性が向上し、安定した経営が行われています。

また、豊富な地域資源や高度な能力を持った人財などに魅力を感じた国内外の企業が積極的に青森県へ新規参入しています。

【めざす理由】

海外では、地方都市にも、地域資源を生かして、独自の技術により世界をリードする企業が多くあります。

全国有数の地域資源や優秀な人財などがそろう本県においても、知力や技術力が結集すれば、国内外で支持される「あおり「ビジネス」」が確立される可能性が十分あります。

魅力あふれる「あおり「ワーク」」

交通インフラや情報通信基盤の整備が進み、首都圏との地理的ハンディキャップが解消しています。

これにより、県内就職を希望する人財が、全員県内に就職できるようになっているだけでなく、新たな価値を発信していく農林水産業やベンチャー企業などの魅力あふれる職場がたくさんあり、県外からも多くの人財が集まっています。

また、職場と住まい、自然・温泉などが身近にあるという青森県の魅力を生かして余暇を楽しみながら、やりがいを感じ、創造性を生かして働いています。

【めざす理由】

ワーク・ライフ・バランス^{**}が一層重視される中においては、企業や働く人にとって、恵まれた自然や職住環境などは、従来に増して重要な要素となっています。そうした環境がそろっている本県に、多様な働き方ができる職場がたくさんあり、人財が集まるようになれば、魅力あふれる「あおり「ワーク」」が実現するはずですが、

※ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。



安全・安心、健康分野

命と暮らしを守る



【2030年における青森県のめざす姿】

健康で長生きな青森県

青森県、市町村、企業などの協働による健康づくりが推進されており、県民は健康的な生活習慣づくりなどの正しい知識を持ち、実践しています。

生涯にわたり適時適切な保健・医療・福祉サービスが提供されており、青森県は健康で長生きの地域になっているとともに、県民は年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが生き生きと安心して暮らしています。

【めざす理由】

本県の平均寿命は着実に延びていますが、全国順位は、男性が昭和50年から、女性が平成12年から最下位が続いています。

特に全国と比べて高い65歳未満の死亡率を下げるためには、県民のみなさんが自らの健康を大切に、生活習慣などの改善に取り組むことが重要です。

また、死亡率の高いがんへの対策や質の高い地域医療サービスの提供などを進める必要があります。

安心して子どもを産み育てられる「最適の地」

青森県は、社会全体で子育てを支え合い、県民が安心して結婚し、子どもを産み育てられる「最適の地」であり、憧れの的になっています。

【めざす理由】

人口減少と少子化が進行していますが、結婚・妊娠・出産・子育てへの支援を進め、未来の青森県づくりの原動力である子どもを健やかに産み育てられる環境を充実していく必要があります。

みんなで作る安全・安心な青森県

自然災害や原子力災害、新型インフルエンザなど様々な災害や危機への対策とともに、人命を守ることを最優先にした防災体制やインフラが整備されていて、ソフトとハードの両面から県民の安全が確保されています。また、県民が手を取り合って自らの地域を災害や事故、犯罪などから守る取組が定着しています。

県民は、青森の豊かな自然から安全な水と食べ物を受け取り、安心して快適に暮らしています。

【めざす理由】

青森県に住む私たちが直面する可能性のある災害や危機などに日頃から備えておくことで、私たちは安心して暮らすことができます。万が一、災害や危機が発生した場合でも、備えがあれば被害を最小限に食い止めることができるのです。

また、私たちの生活で欠かすことのできない要素である水と食の安全を確保することは、私たちの暮らしを支えるだけでなく、本県の自然や産業を守ることもつながります。





環境分野

自然との共生、低炭素・循環による
持続可能な地域社会の形成



【2030年における青森県のめざす姿】

自然と共生する暮らし

県民は、多様な動植物が息づく自然からの恵みが日々の暮らしや産業活動を支えていることを意識しながら生活しています。そして、自然に負担をかけないように心がけながらその恵みを楽しむ自然共生社会を築き、恵まれた自然と歴史や風土が感じられる美しい景観の中で暮らしています。

世界自然遺産白神山地は、太古からの変わらぬ姿を保つとともに、人と自然の共生の象徴として、県内外の人々がその価値を深く認識しています。

【めざす理由】

県民が愛する自然^{*}は、豊かな暮らしをもたらしてくれる大切な存在です。そして、本県の農林水産業など「生業(なりわい)」を支える基盤でもあるのです。

^{*} 県民が愛する自然：平成24年7月に県が実施した「郷土に関する意識調査」では、県民が愛着を持っている地域資源の第1位が「豊かな自然」となっています。

循環型社会の実現

県民は、日々の行動が自らの暮らしの基盤である環境に対して深刻な影響を与える可能性があることを理解し、3R^{*}に積極的に取り組んでいます。

また、廃棄物の適正処理や大気・水質などの環境保全対策によって、県民の快適な生活環境が守られています。

^{*} 3R：リデュース(Reduce:発生抑制=「ごみ」は出さない)、リユース(Reuse:再使用=使える「もの」は繰り返して使う)、リサイクル(Recycle:再生利用=再び資源として利用する)の3つの頭文字「R」を取ったもので、環境配慮行動のキーワードとして使われています。

低炭素社会の実現

家庭、事業所、行政などあらゆる主体が、環境にやさしく効率の良い省エネルギー型のライフスタイルや事業活動を確立しています。

さらに、風力、地熱^{*}、太陽光、バイオマス、小水力^{*}、地中熱^{*}など地域の特性を生かした再生可能エネルギーを地域で活用する「エネルギーの地産地消」の取組も進んでおり、世界的な地球温暖化対策に貢献しています。

^{*} 地熱：地下深部にある熱エネルギーを指し、発電時に二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーとして利用可能な資源のことです。

^{*} 小水力：おおむね1,000kw以下の発電ができる水力資源のことです。

^{*} 地中熱：地下浅部に存在する低温の熱エネルギーのことです。年間を通じてほぼ温度の変化が見られないため、大気との温度差により、省エネルギーな冷暖房や融雪を可能にするものです。

【めざす理由】

省資源となる3Rと二酸化炭素排出量の削減となる省エネルギーは、ともに環境への負荷を軽減し、地球温暖化対策として重要です。

環境にやさしい青森県民

県民は、子どもから大人まで、身近な自然に直接触れたり、環境について実践的に学ぶ機会を継続的に持つことで、自然の大切さを理解しています。

また、環境にやさしい行動が定着しており、環境問題に意識の高い企業が成長している社会になっています。

【めざす理由】

私たちは自然からの恵みや様々な生物とのつながりの中で暮らしています。環境にやさしい行動をすることは、自分自身の存在や次世代の子どもたちを守ることにもなります。





教育、人づくり分野

生活創造社会の礎



【2030年における青森県のめざす姿】

夢や志の実現に向かって挑戦する青森県民

青森県の子どもは、郷土に誇りを持ち、学ぶ意義を自覚し、基礎的な学力や体力、自主性や社会性を身に付けています。また、多様性^{*}を尊重する心を持ち、語学力やコミュニケーション能力を磨きながら、夢や志の実現に向かって挑戦し、国内外で活躍するなど、新しい時代を主体的に切り拓く人財として成長しています。

※多様性：国籍、人種、民族、性別、年齢、障害の有無など様々な違いのある人々や社会が存在することです。

社会全体で育む「生きる力^{*}」

青森県では、安全・安心な教育環境の中で、社会の変化に即した子どもたち一人ひとりの個性と能力を伸ばす教育活動が行われています。

また、保育所や幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学といった関係機関相互の「縦の連携」と学校、家庭、地域の「横の連携」が強化され、社会全体で子どもたちの「生きる力」が育まれています。

※生きる力：これからの社会に必要な、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」、他人を思いやる心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康と体力」、これらの調和のとれた力のことです。

【めざす理由】

グローバル化など変化が激しい社会環境の中で、ふるさとにいても、また、ふるさとの地を遠く離れていても、ふるさとを思い、愛する気持ちを礎として、気概を持って立ち向かっていく人財を育てることが、本県発展の原動力となり、持続可能な青森県づくりにつながるのです。

人が育ち、磨かれ、活躍する青森県

青森県では、若者や女性などの人財が、地域の魅力を理解し、地域の資源を生かした生業(なりわい)づくりや地域づくりに取り組むリーダーとして切磋琢磨しながら活躍しています。

また、青森県では、県内の人財と国内外の人財をつなぎ、協働を進める核となる人財が活躍しています。

【めざす理由】

人口減少が進む中、各分野の未来を担う人財の活躍を推進することが、本県の活性化には必要です。

生きがいを感じ、心豊かに暮らせる地域

青森県は、多様な生き方、働き方を選択できる地域になっています。

また、県民は、余暇を利用した学習活動やボランティア活動などに積極的に取り組み、地域と関わる活動を通して、誰もが生きがいを感じながら心豊かに暮らしています。

【めざす理由】

県民が、多様な生き方、働き方を選択できることで、学びたい時に学ぶことができ、ボランティア活動などの地域活動にも参加しやすくなるほか、家庭においては、子育て期や中高年期といった人生の各段階に応じた様々なライフスタイルを選択できるようになるのです。

歴史・文化が息づく青森県

県民は、郷土の歴史・文化に対する誇りや高い意識を持っています。

また、青森県では、芸術文化に触れる機会が増えており、郷土の伝統文化や歴史的な文化遺産が県民共通の財産として継承されています。

さらに、三内丸山遺跡に代表される縄文文化の価値が、国内外に認識されています。

【めざす理由】

県民が、郷土の歴史・文化に誇りや高い意識を持ち、様々な場面で、本県の良さを伝えることができるようになることで、県民共通の財産である歴史・文化が引き継がれていきます。

スポーツが盛んな青森県

県民は子どもから高齢者まで、誰もがスポーツに親しんでいます。

また、青森県は、全国大会などで活躍する選手やスポーツ活動を支える人財などを多く輩出しています。

さらに、こうした人財が活躍し、県内外から人が集まる交流拠点となっているとともに、各地域が活性化しています。

【めざす理由】

年間を通してスポーツに親しむ環境づくりや、全国大会などで活躍できる選手の育成、スポーツを通じた地域づくりの推進などが、県民の健康で豊かな生活の実現と、地域の活性化につながります。



3 「生業(なりわい)」と「生活」の成長戦略

この計画では、2030年における青森県のめざす姿の具体像を

**青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が
世界に貢献し広く認められている状態**

||

世界が認める「青森ブランド」の確立

として掲げています。

その実現に向けて、この計画期間における取組の基本方針を
『生業(なりわい)』と『生活』の成長戦略』として次に示すものです。

「生業(なりわい)」と「生活」の成長戦略

～強みをとことん、課題をチャンスに～

1 分野横断の連鎖展開～青森県の価値を生み出すバリューチェーン※～

本県の強みをとことん活用することや困難な課題を解決することを通して生み出される価値をより大きく確かなものにするには、「生業(なりわい)」と「生活」の各分野が価値でつながって横断的な取組を展開することが効果的です。

そこで、この計画で掲げる「強みをとことん、課題をチャンスに」という基本コンセプトについて説明する中で分野横断の連鎖展開の考え方を紹介します。

※バリューチェーン：ハーバード大学のマイケル・ポーター教授が著書「競争優位の戦略」で提唱したバリューチェーン(価値連鎖)の考え方を行政に応用したものです。

強 みでとことん稼ぐ

食や観光資源など、その価値が世界に通じる可能性のある本県の地域資源を強みとして、個々の分野で活用するだけでなく分野横断的にオール青森として活用していくことにより、様々な立場の県民がその価値を享受しながら、世界に通じる「青森ブランド」に高めていくことが可能となります。

具体例として、本県の食の優位性を極める分野横断の取組を展開する場合を考えてみます。

産業・雇用分野 りんごを始めとする高品質な農林水産物のブランド化による外貨獲得

安全・安心、健康分野 食の安全・安心の体制づくりと健康な食生活や豊かな食文化の普及

環境分野 農林水産業の基盤となる「安全・安心な水資源」の確保

教育、人づくり分野 地域の食を支える若手や女性など意欲的な人財の育成

以上のような分野横断の展開により、それぞれの取組相互に好影響をもたらすとともに、共通する価値でつながることにより、本県の食が有する価値の可能性が多面的に拡大します。

課 題をチャンスに～課題解決型イノベーション～

先に触れたとおり、本県が抱える様々な課題は、視点を変えると他都道府県よりも成長余地が大きい分野と捉えることができ、本県において課題解決は、地域が大きく成長するチャンスとなるのです。この計画では、課題解決の取組の成果が地域の発展に好循環をもたらしていく課題解決型イノベーションを進めていきます。発想の転換で地域に革新的な進化を引き起こそうというものです。

その中で地域が享受する利益をより大きくするためには、課題の克服に地域力を結集して分野横断で取り組み、相乗的な効果を得ていくことが必要です。

その具体例として、本県が短命県を克服する取組を分野横断で展開する場合を考えてみます。

産業・雇用分野 健康関連分野の産業育成と雇用拡大

安全・安心、健康分野 ヘルスリテラシー(健やか力)※の向上などの健康づくりの推進

環境分野 自然環境の保護活動を通じた健康づくりの展開

教育、人づくり分野 地域や職場における健康づくりリーダーの育成

以上のように、健康という共通のテーマの下に各分野が連鎖的に取組を進めることにより、それぞれの取組相互に好影響をもたらすとともに、これによって得られる健康という価値は、上で述べた本県の食の価値を高めることにもつながります。

※ヘルスリテラシー(健やか力)：日頃から健康や医療に関する正しい知識や情報を持ち、それらを適切に利用し、活用する力のことです。

2 人財の「地産地活」

人づくりはあらゆる分野の礎となるものであり、人口減少が進行する本県においては、地域を支えていく人財の育成に重点的に取り組んでいく必要があります。その基本となる考え方が、地域が産み、地域が育てた人財が地域で活躍できる環境をつくる人財の「地産地活」です。

地域の生活面に着目した「生業(なりわい)づくり」

第1章で示したように、人口減少が今後も進行していくことを踏まえると、住民自らが地域を支える自立的な地域づくりを一層進めていく必要があります。

本県では、農山漁村の「地域経営」により、農山漁村が自立的に発展する仕組みづくりを進めており、農商工連携や6次産業化に伴う地域の雇用創出や地域コミュニティの活性化などが図られています。

この農山漁村の「地域経営」以外にも、健康づくり、子育て支援、環境保全などの地域の生活面のニーズに合った「生業(なりわい)づくり」を進めることで経済的に自立した地域づくりが可能となります。

このような地域の生活面に焦点を当てた「生業(なりわい)づくり」においては、担い手として期待される女性、高齢者、若者などの人財の育成・活用が重要です。

地域が産み育てた人財が活躍する青森県

人口減少や経済のグローバル化の進行により、「生業(なりわい)」と「生活」の両面において、世界に貢献し広く認められる価値を創り出す人財の育成は一層重要となっています。

本県では、18歳の県外転出者数が全年齢を通して最も多い状況が継続しており、加えて、20歳、22歳における県外への転出者数も多い状況にあります。こうした本県の将来を担う人財の流出が継続している現状において、地域が産み、育てた人財が地域で活躍できる環境づくりは本県にとって喫緊の課題と言えます。

そのためには、雇用の場の創出や所得の向上、結婚や出産、子育てへの支援、医師や看護師などの専門職の県内定着、さらに、県外に転出した人財が戻ってくる際に、身につけたスキルを生かすことができる受け皿づくりなどに重点的に取り組む必要があります。一方、18歳から20歳代前半にかけての県外転出者が多い中で、大学などへの進学のため本県に転入する若者も、地域が育て、地域で活躍する人財であり、ともに本県の価値を創り出していくことが重要です。

加えて、県外で活躍する、本県が産み、育てた人財が本県に貢献できる環境を整えていくことも大切です。【図1】

【図1】人財の「地産地活」



このように、「強みをとことん、課題をチャンスに」という基本コンセプトの下、分野横断の連鎖展開を進めることや、あらゆる分野の根幹をなす人づくりを通じて、青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が世界に貢献し広く認められている状態になることをめざしていくのが、「『生業(なりわい)』と『生活』の成長戦略」です。【図2】

その具体的な展開方法は、第4章における「取組の重点化」に反映されています。

【図2】「青森県基本計画未来を変える挑戦」の全体像

